



# む け げ 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺  
常陸太田市久米町20-1  
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058  
FAX：0294-76-0169

## 本願寺派の意思決定機関・宗会

衆議院選挙が終わりました。選挙結果には、色々と思う方もいることと思いますが、この選挙が終わると、私たちの本願寺派でもまもなく選挙になります。この本願寺派では1881(明治14)年に『宗会』という議会が生まれました。これは、ヨーロッパの三権分立のシステムを参考に、立法(宗会)・行政(宗務所)・司法(監正局)という組織を持ち、宗会は原則選挙によって選ばれた議員によって運営されています。

この議員には、僧侶議員と門徒議員があつて、僧侶議員は教区によって人数の差があり、私たちの東京教区ですと2名という定員になっております。門徒議員は、各教区1名となっており、これは教区会で教区会議員の選挙によって選ばれます。教区会議員とは、各組から僧侶議員1名・門徒議員1名を選挙によって選出されます。この様に、形式上は選挙によって選出される、極めて民主的なシステムになっています。

分かり易いように国のシステムと対比してみましょう。国で言う天皇にあたる人が、門主となり、国会にあたるのが宗会で、内閣にあたるのは総局。そして総理大臣にあたるのが、総長になります。そして総長も宗会議員の選挙によって選ばれるのですが、ここに少しからくりがありまして、門主が複数名を指名して、指名された人に対しての選挙を行います。ですから、全くフラットかという点で、門主の指名が入るといって、そこに少し門主の意向が生じることと思われまふ。

明治に帝国議会が生まれたのは1890(明治23)年ですから、本願寺派は明治政府に先立って議会制度を取り入れているわけですが、その議会(宗会)が末寺や門徒の気持ちをどれくらい汲み取っているかという点で、正直疑問が残るところではあります。だからこそ、現在本願寺では教えの根幹に関わる問題で大きく揺れています。その問題とは、教えを私はどのように受け取っているか、という領解文(りょうげもん)の問題です。様々な悩み・苦しみ(煩悩)のある我が身で有ることを阿弥陀仏の智慧によって知らされ、その煩悩のある我が身は、亡くなるまで煩悩が消えることは無く、煩悩のある我が身そのまま、阿弥陀仏の慈悲心によって救い取られる、と言うのが他力の領解だったと思うのですが、現在問題になっている新しい領解文では、仏陀の悟りと私の煩悩は一つだということです。

煩悩有る我が身だからこそ、阿弥陀仏は救い取ろうとされるので、阿弥陀仏側から言うとならば、煩悩有る私と仏の悟りは、表裏一体で一つなのかもしれませんが、煩悩から離れることの出来ない私からすれば、煩悩に眼を遮られているわけですから、悟りの姿を見ることさえ出来ないと言うことで、決して一体で有るとは考えられないし、一体で有ると見ることも出来ません。でしよう。

自分が亡くなるまで煩悩を離れることの出来ない我が身であるとする、他にも色々疑問符がつく場所が散見されます。新しい領解文が、書いた人個人の領解であるなら、ここまで大きな問題にならなかったのでしょうか、全員で唱和しなさいとか、僧侶になる得度式を受けるものは暗唱出来るようにしておけ、というのはあまりな暴論だと私は思うのです。こういう思いを受け止めてくれる宗会議員もいるのですが、正直少数派でもあり、現実には不思議な領解文が流布されるという事を止められないでいる為、宗門を二分するような問題になっている現状があります。



(第8回)※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

お釈迦様の生涯 アングリマーラの話(その2)

しかしその時、ゆっくりと歩いているように見えるお釈迦様に、なぜかいくら走って追いかけても追いつけなかったのです。そこで思わずアングリマーラは、立ち止まって叫びました。

「沙門よ、止まれ!!」

お釈迦様は「私は止まっている。そなたこそ止まったらどうか」と告げました。すると、アングリマーラは、「お前は歩いているのに止まっていると言ひ、俺は立ち止まっているのに止まれという。一体、何を言うのか!」

「アングリマーラよ。私は、生きとし生ける者に害心を起こす事なく、心は常に静かに立っている。しかるに、そなたの心は命ある者に対して害心を持ち、立ち止まる事なく苦しんでいるではないか。だから、私は立っているが、そなたは立っていないと言うのだ。」

この言葉を聞いた瞬間、アングリマーラは我に帰り「私は今まで幾多の悪行を犯してきたが、大沙門の言葉に従って、今こそこれ(剣)を捨てよう」と言って、剣を捨てたのです。お釈迦様は、そのまま彼を祇園精舎に連れて帰りました。

それを見ていた村人が、この一部始終をパセーナディー王に告げました。そこで、お釈迦様に帰依していた国王(須達多がお釈迦様に寄進した祇園精舎は息子のジェータ太子が持っていた土地)は武装した兵士を伴い、祇園精舎にやって来ました。

その様子を見たお釈迦様は、「王よ、そのような姿で どうしたというのですか。戦争でも始めるつもりなのですか。」と問いかけました。すると王は、「いや、そうではありません。まさかとは思いますが、ここに アングリマーラがいると言う訴えがあったものですから、来てみたのです。」

するとお釈迦様は、「王よ、あなたはアングリマーラが私のもとで出家して、ここで戒めを守り修行して悟りを開いているとしたら、彼をどうなさいますか?」と言いました。すると王は、「そういうことならば捕らえるには及びませんが、しかし、まさかあの悪逆なアングリマーラに限って、そのような事は、絶対にありますまい。」と返事しました。

「では、御覧下さい。そこに座っている者が、アングリマーラです」

その姿を見て王は驚愕しましたが、お釈迦様に恐れる事はないと言われ、出家しているならば捕らえないと言った手前、驚いて城に戻って行きました。

しかし、アングリマーラは托鉢に行った町々で、当然のごとく人々に嫌われ、そして襲われ、棒で打たれ、石を投げられて毎日血まみれになって、祇園精舎に帰りつくこととなりました。

お釈迦様は、「アングリマーラよ。忍受(我慢して受け入れる)せよ。そなたが来世において受ける苦しみを今受けているのだから。人がもし善業によって、以前になした悪行をつぐなうなれば、その人は、この世を照らすこと、雲を離れし 月のごとくであろう」と語ったと伝えられています。

(次号へ続く)

※アングリマーラの本名は、アヒンサカと言いますが、アングリマーラと呼ばれるようになった由来は、アングリとは、指を指す言葉であり、マーラとは、首飾りを指す言葉からきています。





## お寺でライブ!?! 一期一会落語会

10月14日(日)に2回目になる、一期一会落語会を開催しました。第一回の昨年に引き続き、柳家平和師匠と柳家ひろ馬さんによる二人会敬式で、約2時間楽しい落語を聞くことが出来ました。

今年は、25名ほどの方に参加して頂きました。お忙しい中を落語会の為に寺まで足を運んで頂き感謝いたします。落語会終了後は、昨年同様手拭いや扇子の販売、参加者全員での写真撮影と、二時間があっという間に過ぎ去りました。

来年の落語会は、10月4日(土)午後2時から行うことになりましたので、次回もよろしくお願い致します。



### お寺でライブ!?! 花祭りコンサート

4月8日は、お釈迦様の誕生日「花祭り」です。灌仏会とも言いますが、なんだかちょっと堅苦しい言い方ですね。では、灌仏会が何故花祭りと呼ばれるようになったのでしょうか。実は、1901年4月にドイツに留学していた近角常観ちかづみじょうかんという真宗大谷派のお坊さんを中心に18名がベルリンのホテル四季館に集まって、誕生仏を花で囲み、お釈迦様の誕生を讃える『Blumen Fest(日本語訳:花祭り)』を行うと、三百人以上のドイツ人が参加して大変盛り上がり、それが日本にニュースで伝わり、灌仏会を花祭りと呼ぶようになったと言うことです。

さて、理屈はどうあれ花祭りは、今も日本の各地で行われています。中にはお釈迦様の故事に因んで、白象(当然作り物です)を登場させるところも多いです。東京の築地本願寺の花祭りには、白象は勿論、稚児行列も登場して大変賑やかに行われます。そんな花祭りですが、正念寺では4月8日付近の日曜日に併せて、花祭りコンサートを開催しています。毎年沢山の方に参加して戴き、賑やかに行っています。新型コロナ感染症の流行もあって、一時は歌手と観客の間にアクリル板を置くという事もしていたのですが、昨年からは以前のようにアクリル板無しで歌っていただいています。



来年のコンサートの日時は、4月6日(日)14時より天下井朱美様をお願いして正念寺本堂で行います。どうぞ沢山の方に参加していただき、一緒にお釈迦様のご誕生をお祝いいたしましょう。

### 法句経の言葉

悪友と付き合うな。卑しい人間と付き合うな。善き友と付き合え。立派な人物と付き合え。

解説 悪友とは、自分を助けてくれない人間です。卑しい人間とは、自分に都合の良い時は助けてくれるが、成功すると妬み悪口を言う人間です。そういう人間とは付き合わないことです。善き友とは、自分を助けてくれる人間です。立派な人物とは、他人の成功と一緒に喜び、悪口を言わない人間です。そういう人間と付き合うことです。



## 感謝録

今年も沢山のお仏供米を寄進して頂きました。感謝いたします。

常陸太田市

井坂 邦夫様	井坂 照雄様
井坂 友之様	井坂 ヨシエ様
小菌 篤様	小菌 達雄様
小菌 浩文様	勝山 芳和様
後藤 和男様	仲村 義信様
平山 昌邦様	武藤 美徳様
那珂市	
浅川 泉様	檜村 一洋様
小澤 喜一様	住友 政美様

※ 記載されていない方がありましたら、ご連絡ください。

清掃奉仕作業参加者 令和6年 7月30日(火)

常陸太田市

井坂 豊子様	井坂 暢郎様
井坂 ヨシエ様	坂内 愛子様
佐藤 のり子様	永山 正文様
那珂市	
匿名様	

仏具磨き奉仕参加者 令和6年 8月 6日(火)

常陸太田市

井坂 照雄様	井坂 友之様
井坂 ヨシエ様	猪口 治三様
坂内 愛子様	
那珂市	
小坪 一恵様	箕川 京子様
安 二郎様	

## ホームページのご案内

正念寺のホームページでは、今までの寺報やちょっとした仏教の話、寺の縁起などもあります。浄土真宗本願寺派正念寺で検索すると表示されます。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んで下さい。



また、ホームページからYouTubeの正念寺チャンネルへも行けますので、今までの花祭りコンサート等を是非お楽しみ下さい。

## これからの行事予定

11月26日(火) 9時～	清掃奉仕	
12月 8日(日) 9時半～	聞法会	
12月24日(火) 9時～	清掃奉仕	
12月31日(火) 14時～	位牌等炊上勤行	
16時	年越しの鐘	
1月 1日(水) 8時～	修正会	
1月 7日(火) 10時～	総代・世話人	
	初顔合わせ	
1月 8日(水) 10時～	聞法会初顔合わせ	
2月25日(火) 9時～	清掃奉仕	
3月 4日(火) 13時半～	仏具磨き	
3月 8日(土) 13時半～	永代経法要	
3月20日(木) 11時～	久遠廟法要	
4月 6日(日) 14時～	花祭りコンサート	

## 住職雑感

パリオリンピック・パラリンピックも終わり、メダルに一喜一憂した時間もえっ？っと思う判定に憤った事も、今では過去の思い出になっている自分にビックリします。

時間は、どんな状態でも誰にも同じように流れています。私たちは、誰でも過去に縛られ、未来に希望を持ちます。しかし、仏教の考え方の一つに、時間は未来から過去に流れる、と言う考え方があります。川の水が、川上(未来)から川下(現在)へと流れるように時間も未来から現在へと流れているということです。

ボクシングで例を取ってみると、どの選手も試合当日を想定して、それまでの時間で練習や減量を行います。つまり、未来の自分があって、現在の自分があるということです。これが、未来から現在へ、そして過去へ時間が流れるという考えです。

私たちは、時間は過去から現在、そして未来へと流れていると考えています。しかし、未来から現在へと時間が流れていると視点を変えると、また新しい現在の自分を見つけることが出来るかもしれませんね。